

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 69	福山市立戸手小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
<ul style="list-style-type: none"> 「オール新市」を掲げる中で、地域の良さの発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 HP などでの出前授業の取組(キャリア教育の取組)は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 学校に登校できない子どもたちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。(知らない人が多い。) 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができおり、4月当初から12月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々に取り組んでいく。

III 自校

ミッション	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己表現力	自己理解力	
夢や志を持って、自らの力でたくましく生きる児童を育てる	めざす子ども像	5 6 年	活動をふり振り返り、改善策を考える。	自分の思いや考えを、多様な表現方法を用いて説明できる。	自分の将来の夢や目標を持つ。
学校教育目標		3 4 年	困難な事にも挑戦し、最後までやりきる。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。	自分の得意な事や、夢中になれる事を見つける。
現状		1 2 年	自分のやりたい事に挑戦する。	自分の思いを相手に伝える事ができる。	自分のよさに気付く。
<児童生徒> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を下回っており、基礎学力の定着に課題がある。また、正答率 40%未満の児童の割合が、約20%と個人差が大きく、個別の手立てや支援が必要な児童が複数いる。 「自分の思いや考えを表現できた」児童は、86.0%で、自己表現力が高まってきているが、友だちの考えと比較することで、考えを広げたり深めたりすることには課題が残る。 年間を通して、体力向上のための自己目標をもって取り組むことで、「自分の体力の向上が感じられた」児童は92.6%であった。 <授業> <ul style="list-style-type: none"> 研修や互いの授業参観を通して、授業づくりに関わる対話を通して、教職員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。 地域とのつながりを持った活動を継続することで、地域と共に学ぶ探究学習の推進とキャリア教育の充実を図る。 	研究	テーマ	対話を通して自分の考えを更新できる授業の創造 ～互いの考えを認め合い、深め合う児童の育成～		
		内容等	国語科「読むこと」領域の学習に、フレームリーディングの手法を取り入れ、自分のもっているフレームを生かしつつ、そのフレームを更新したり、新たなフレームを獲得したりしながら、文章のつながりを捉え、考えを深める授業づくりを進める。		
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 対話を通して、新たな気付き・発見をしたり自分の考えを更新したりする授業 反応することを大切にし、互いの考えを認め合う授業 対話的、協働的で深い学びを実現するために必要な、基礎的な学力を確実に身に付ける。 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立戸手小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力セ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力セ評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	子どもが学びに向かう力、学び続ける力を育成する。	継続	☆	<チャレンジ&チェンジする力>を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の課題解決に向けて挑戦し、規則正しい生活習慣を身に付ける。 中学校区で設定した木曜日の「メディアコントロールデイ」に、全校で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「以前より心と体が健康になったと感じられた」児童を85%以上にする。 就寝前1時間のメディア不使用が達成できた児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □生活習慣振り返るリカードの活用を行い、児童の肯定的評価3.5%。 □メディアコントロールカードや毎月の取組結果を活用し、児童の達成率は69.7%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の見直しの継続と体育科でサーキット運動や体力づくりイベントを実施する。 学校だより等で保護者への啓発を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> □運動に親しむ場の設定を行うとともに、毎月のメディアコントロールカードの結果を活用し児童や保護者へ啓発を行った。 ◎「以前より心と体が健康になったと感じられた」児童83.8%。 ◎就寝前1時間のメディア不使用が達成できた児童74.7%。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロールDayの取組と家庭でもできる体力づくりとを関連させた取組を実施する。 ・学活を通して健康について考える時間を設け、保護者への啓発を継続する。
5				<自己表現力>を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての授業において自分の思いや考えを表現する場の工夫を行い、チャレンジウィークを通して交流する。 基礎学力の定着のための授業や帯タイムの工夫を行い、取組の効果を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「対話を通して自分の思いや考えを表現できた」児童87%以上にする。 単元末テスト(知技・国算)における正答率40%未満の児童を10%未満にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童が対話する場面を授業に効果的に位置づけ、表現力に関する肯定的評価92.2%。 □各学級の単元テスト結果の集計と分析を行い、全クラス達成できた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、各行事・全ての授業において表現する場の工夫を行うことについて全教職員で意識統一して取り組む。 数値と児童実態とに乖離があるため、新たに指標を「(国算・知技)における70点未満の児童を20%以下にする」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科を中心に各教科の授業や行事において、自分の考えを表現する場を設定し、全教職員で共通認識のもと取組を進めた。 ◎表現力に関して、児童の肯定的評価は93.5%。 ◎「(国算・知技)における70点未満の児童は、国語で19.5%、算数で9.9%。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジウィークの取組で、児童の実態から計画・実践・改善点を考えることで、効果的な対話で学びを深めていく。 ・ことものつますきを把握し、手立てを考え、実践することを、全教職員で継続して行う。
5				<自己理解力>を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が、主体的に課題を発見し、自己目標を設定して、実行できるように、活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標や夢の実現のために、「何をしたいか」、「何をすべきか」考えることができた児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □目標設定と振り返りのできるリフレクションシートを全校で活用し、活動の振り返りや次に何をすればよいか主体的に考えることができる児童は、共に90%以上であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会、学習発表会等や日々の授業においても「振り返り」→「次の目標設定」を定着させることで、自己指導能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> □様々な行事や授業において、リフレクションシートを活用し、振り返りを行った。 ◎振り返りを次の活動に生かしている児童は95.7%。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・付けたい力が付いた児童の姿を具体的に想定し、成長が明確に実感できる振り返りを行うことで児童自ら次に何をすればよいか考えられるようにする。
5	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境を充実させる。	見直し		業務改善を図ることで、教職員が、支え合いながらやりがいや充実感を持って教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の授業の実現に向けた授業の自己目標を設定し、取組の交流することで、授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりにおける自己目標に関わる取組が児童の成長につながっていると実感できる教職員の肯定的評価90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □互いに授業参観を行う「みるみるみせる」や授業づくりポートフォリオの作成と取組を実施し、授業の成果を交流することで、教職員の肯定的評価82.3%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりポートフォリオを基に、自己目標における取組状況を交流・リフレクションする時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> □授業づくりポートフォリオを基に、授業参観や標準学力調査結果分析を行い、児童のつますきと手立てを検討した。 ◎教職員の肯定的評価88.3%。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善と共に、授業改善に取り組む。結果分析とつますき把握に重点を置いた授業づくりポートフォリオの取組のPDCAサイクルを確実に実施する。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。